

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
日本児童教育専門学校	1984年4月2日	小林 光俊	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 敬心学園	1986年4月11日	小林 光俊	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311		
目 的	児童教育科は保育士・幼稚園教諭になるための基礎を講義で学び、現場ですぐに役立つ知識を身に付けることを目的とする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
児童教育専門課程	児童教育科	昼間3年	2550単位時間	平成19.2.22告示第20号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	990単位時間	1560単位時間	0 単位時間	450単位時間	0 単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
105人	86人	11 人	48 人	59 人	
学期制度	■前期：4月1日～9月6日まで ■後期：9月7日～3月31日まで		成績評価	■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について S, A, B, C, D, Eで表し、C以上が合格点となり単位を付与される。	
長期休み	■夏 季：8月2日～9月6日 ■冬 季：12月24日～1月3日 ■学 年 末：1月28日～3月31日		卒業・進級条件	進級条件：なし 卒業条件：93単位以上取得し、卒業要件科目の単位認定により卒業ができる	
生徒指導	■クラス担任制(有) ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者連絡		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア・学内セミナー ■サークル活動(有)	
主な就職先	■主な就職先、業界 保育所・幼稚園・児童福祉施設等 ■就職率 100%		主な資格・検定	保育士資格 幼稚園教諭二種免許 社会福祉主事任用資格	
中途退学の現状	■中途退学者 10名 ■中退率 12.5% 平成 24年4月1日在学者 80名(平成24年4月入学者を含む) 平成 25年3月31日在学者 70名(平成25年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良 など ■中退防止のための取組 クラス担任を中心とした学生との個別面談を通して、修学継続への精神的フォローをはかる。				
ホームページ	URL: <a href="http://www.jje.ac.jp">http://www.jje.ac.jp</a>				

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

児童教育科は実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携、実習・就職フェアを通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む)に活かすことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年11月1日現在

名 前	所 属
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 児童指導員
今泉 良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭
菊池 一英	日本児童教育専門学校 副校長
阿久津 撰	日本児童教育専門学校 教務部長 日本児童教育専門学校 児童教育科学科長
中西 和子	日本児童教育専門学校 児童教育科学科長
松森 照幸	日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長
柳澤 均	日本児童教育専門学校 事務部長

(開催日時)

第1回 平成25年11月26日 18:00~19:00

第2回 平成25年12月12日 18:00~19:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学生が主体的に実習に取り組む姿勢を重視し、実習施設を学生自身が開拓し、実習相談室の担当教職員と密な連携を取って選定する。選定の基準は、過去の実習受け入れ実績をもとにして、本校の求める人材育成とのマッチング、及びカリキュラムに沿った指導・援助が行えるかどうかを判断するとともに、学生自身の個性、将来目標、交通条件等に配慮し選定する。また、本校と密に連絡を取り、学生指導ができるシステムが備わっているかも重要な選定基準である。選定後、施設と契約締結し、実習を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、保育所保育の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	ひばり保育園、 荒川区立三河島保育園、 オリンピック保育園、 アスク上板橋保育園 他計32施設
施設実習	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	望みの門方船乳児院、 いわつき乳児院、 向島学園、 今井城学園 他計15施設
教育実習	実習は、本校において履修した教科全体の知識・技能を現場において総合的に実践し、応用力を養うことを目的とする。また、体験を通して幼稚園教諭としての自覚を高め、各自の今後の学習課題を探究する契機とする。	こひつじ幼稚園、金町幼稚園、 調布白菊幼稚園、 ひこばえ幼稚園、 大泉小鳩幼稚園 他計11園

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

研修は、教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させ、本校の理念・目的・目標を達成することを目的とする。

組織の理念実現のため個人の能力を高めることは必須であり、そのためにも組織的に研修を計画し、研修計画の必要性を説明し、納得を得ることに努める。計画の策定にあたっては必要分野・領域を的確に把握し、適切なテーマ・研修計画を設定する。そのために、教職員の専攻分野・担当業務及び本校関連分野に係る団体・企業等の意見を聞き、教職員の経験・能力等を勘案し研修計画を作成し、実施する。

業界分野の変化は法制度の変更によることが多く、制度変更に際し、行政機関等より意見聴取される機会が比較的多いのも業界団体・研究機関である。その業界団体等により実施される研修会・学術大会へ参加することは必須であり、継続的に参加を促すこととなる。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成25年12月3日現在

名 前	所 属
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 児童指導員
今泉 良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

## 授業科目等の概要

(児童教育専門課程 児童教育科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
		○	絵本創作	保育関係の仕事を目指す人にとって、絵本は基本的なアイテムのひとつと言えます。自作の絵本を製本までできたら楽しいのではないのでしょうか。また、保育にもきっと役立つはず。この授業では、そのような手作り絵本を制作します。	3	30	1		○	
○			集団あそび	・集団あそびの意義とねらいを学びます。・あそびが成立する基本的条件をいくつか学びます。・「仲間」「時間」「空間」を子ども達の生活にどのように環境構成するのかを学びます。	1	30	1		○	
		○	おもちゃ論	子どもの遊びの中にある“おもちゃ”が、楽しさとともに子どもの育ちに大きな役割を果たしていることを理解する。多種多様なおもちゃについて考えるための基本的な整理を行う。商品玩具の歴史と現状を把握する。	3	30	1	○		
○			音楽(理論)	・音楽の基本的な構成要素を理解する。 ・楽譜の読み方を学ぶ。 ・簡単な合奏を通して、子どもたちと音楽を分かち合うために何が必要か考察する。	1	30	2	○		
○			リズム・ダンスあそび	心身共に元気な事を、動く事により学び実践していく。色々なリズムのあり方を理解し、身をもって感じとれる様にする(製作しながら)。保育の中で実践できる様、自分自身を知り、「元気・勇気・笑顔」とは、どの様な事かを学んでいく。	1	30	1		○	
○			教育原理	1. 教育に関する基礎的理解を通して、受講生各自の教育観を育む。2. 教育の本質を知ることで、教育と人間の発達との関係を学ぶ。3. 教育の実態を歴史的に把握し、そこに現れた教育思想を学ぶ。	1	30	2	○		
		○	教育史	1. 西洋及び近代日本で、人々が教育についてどのように考え、どんな教育を行ってきたのかを知る。2. 古代から近代に及ぶ西洋の教育史から、現代に通じる特徴的な実践や思想を学ぶ。	2	30	2	○		
○			英語 I	・英語の歌、絵本、ゲームをしながらレッスンプランをアレンジできるように ・Classroom Englishを身につける ・簡単な英作文を書けるように	1	30	2	○		
○			キャリアデザイン I	・「自分らしい生き方」(キャリア)を探し出します。 ・キャリアカードの作成をします。 ・諸先輩方のキャリアを学びます。 ・就職というキャリアについて学びます。 ・夏休みのキャリアアップについて学びます。	1	30	1	○		
○			キャリアデザイン II	・就職活動に向けて基礎的準備をします。 ・マナーと常識について学びます。 ・先輩から就職活動の裏技を学びます。 ・面接試験に向けてスキルアップをします。 ・履歴書記入のノウハウを学びます。	2	30	1	○		

○		保育・教育者論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>・保育者の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>・保育者の専門性について考察し、理解する。</li> <li>・保育者の協働について理解する。</li> </ul>	1	30	2	○		
	○	作品研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本児童文学の豊かさ、広がりを知る。</li> <li>・各自一作品を、読んでいない他の学生に紹介、魅力を伝える実践をする。</li> <li>・発表者の説明を聞き、質問、対話を重ね考えを深める力をつける。</li> <li>・作品を読むときの、様々な視点を学ぶ。</li> <li>・児童文学作品を通して、子ども観をしなやかに広げる。</li> </ul>	3	30	1	○		
○		援助技術演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、そしてその保護者を保育士として援助していくために必要な考え方や具体的な技術について、演習を通して理解を深める。</li> <li>・グループワークを行い、その度ごとに「ふりかえり」のレポートを提出する。</li> <li>・自分の考えを述べる、感情表現を交えてコミュニケーションをとる。</li> <li>・多様な価値観について議論するなどの演習から、援助者の基礎を学ぶ。</li> </ul>	1	30	1	○		
	○	児童ケースワーク	現代の社会状況や、子どもの発達を支える社会の仕組みについての理解を求めた上で、乳幼児期の子どもの問題について、保育者としてどのように関わっていくことができるのかを考え、他者の意見を聞きながら柔軟に対応できる姿勢を身につけていくことを目標とする。	3	30	1	○		
	○	児童厚生概論	児童厚生施設は、乳幼児から中高生まで、自らの意志で来館する(自由来館)施設である。近年社会から施設への期待が高まってきている。そこで働く職員は、子ども達にどう理解されるか？ その中身が問われている。ソーシャルワーカーとしての視点が欲しい。	2	30	2	○		
○		視聴覚教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本の幼児の生活と視聴覚メディアとの関わりについて、その実態を認識する。</li> <li>2. 多様な視聴覚メディアについて基本的な理解を得る。</li> </ol>	1	30	2	○		
○		児童文化実技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が経験した遊び・行事を振り返り子どもが会う様々な文化・保育活動を考える。</li> <li>・手あそび・絵本の読み聞かせの基本的な知識を学ぶ。</li> <li>・子どもの前で「演じる」ことを意識した保育技術について学ぶ。</li> </ul>	1	30	1	○		
	○	絵画技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の造形表現の作例を鑑賞、観察する。</li> <li>・幼児期の造形表現の発達段階における各特徴を理解する。・幼児期の造形表現の発達段階に現れる類型を擬似的に体験する。</li> </ul>	3	30	1	○		
○		社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。</li> </ul>	1	30	2	○		
	○	手話 I	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 手話の学習を通し、聴覚障害に関する理解を深める。</li> <li>② 手話の基礎知識を学ぶ。</li> <li>③ 聴覚障害の基礎知識を学ぶ。</li> </ol>	3	30	1	○		
○		カウンセリング概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングの理論を学び、理解を深める。・演習を通して、人との接し方を体験する。・カウンセリングマインドを体得する。・保育の現場でいかせるカウンセリング的関わりについて考える。</li> </ul>	2	30	2	○		
○		子どもの食と栄養	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。</li> <li>2. 子どもの発育と発達と食生活の関連について理解を深める。</li> </ol>	1	30	2	○		
○		健康指導法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深める。・自分が常に保育の立場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身につける。</li> </ul>	2	30	2	○		
○		子どもの保健 I a	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の発達について理解する。</li> <li>2. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。</li> </ol>	1	30	2	○		

○			子どもの保健 I b	1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。3. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	1	30	2	○		
○			言葉指導法	・0～6歳の言語発達と発達に沿った関わり方について基本的な知識を学ぶ。・言葉はコミュニケーションであり、「人と関わりたい」という主体的な気持ちが土台であることを理解する。	2	30	2	○		
○			環境指導法	・幼児教育における「環境」の意義を理解する。 ・健康で安全な生活環境や発育発達にふさわしい生活環境に関心を持ち、考える。 ・子どもがどのように環境とかかわり、どんなことを体験しているかを探り、環境とかかわる力の理解を深める。	2	30	2	○		
○			保育・教育課程論	1. 保育課程・教育課程の意義を認識する。 2. 日本の保育／幼児教育の歴史の中で、保育内容の変遷を学ぶ。 3. 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』の特徴を理解する。	2	30	2	○		
○			児童家庭福祉	・児童家庭福祉の取り組みを支える法律や具体的な制度について学ぶ。 ・法定児童福祉施設14種について基本的な事項を学ぶ。 ・児童虐待・少子化問題など児童をとりまく現象について理解を深める。	1	30	2	○		
○			障害児保育	・様々な障害についての基本的な知識を学ぶ。 ・障害の具体的な症状と障害の判断に必要な洞察と配慮を深める。 ・障害のある子が本当に困ることとは何かについて考える力を養う。	1	30	2	○		
	○		国語	児童文学作品を具体的な題材として、言葉の力を養う。保育の現場で活用したい作品の知識を得ると共に、子どもとのつき合い方を、より深く、豊かなものにするための発見を促す。	2	30	2	○		
		○	野外レクリエーション	・人間関係や自然観を育成における「野外レクリエーション」の意義を理解する。 ・「野外レクリエーション」の安全で有意義な実施方法を学ぶ。 ・野外での活動に欠かせない「環境教育」についての理論と方法を学ぶ。	2	30	1	○		
○			乳児保育	・乳児保育の特徴や意義を理解し、実際の保育現場でどのように乳児に保育するかを学ぶ。 ・乳児ひとり一人の個々の発達をふまえながら保育することの重要性について理解する。	1	30	2		○	
○			保育・教育の心理学 I	・課題を通して得た教育心理学の知識を、子どもたちとの関わりに実践する。 ・さまざまな問題を抱える子どもたちを理解し、関わり方を学ぶ。	2	30	2	○		
○			保育・教育の心理学 III	本科目では、主に青年期の発達を中心に進めていきます。青年期における諸課題について、心理学的に考察し理解を深めることを目的とします。子どもと成人の間であるこの時期の心理的特徴について学ぶことで、自己理解のきっかけになればと考えています。	2	30	2	○		
○			保育・教育の心理学 IV	・臨床心理学の基本的な考え方を学び、保育現場において果たす役割や意味を知る。 ・子どものパーソナリティ・対人関係・認知といった視点から、その発達上のつまずきについて学ぶ。	2	30	2	○		
○			実習研究 I	・実習の意義について理解する。 ・保育所実習、児童福祉入、通所施設に必要な事項を学ぶ。 ・実習日誌記載の方法、実習段階に応じた活動などの具体的な項目について学ぶ。 ・自らが研究した事項や、立案、作成した指導案や制作物の発表を行う。	1	30	1			○
○			実習研究 II	・保育所、児童福祉入所・通所施設での実習に備え、具体的に準備を進める。 ・保育所、児童福祉入所・通所施設、入所児、職員に対する理解を深める。	1	30	1			○

		○	手話Ⅱ	1. 手話の学習を通し、聴覚障害に関する理解を深める。 2. 手話を覚えて会話の楽しさを習得する。 3. 実際に覚えた手話で聴覚障害者との交流学习を体験し、コミュニケーション力を養う。	3	30	1		○	
○			実習研究Ⅲ	・保育所保育実習を振り返り、評価・反省に基づき、課題を理解する。 ・次の実習に向け、目的意識・問題意識を高める。 ・学習計画を立て、知識・技術面の向上を図る。	3	30	1			○
○			実習研究Ⅳ	・保育実習Ⅱに向け、実践力を高める。 ・責任実習を念頭に置き、総合的な力の養成を図る。 ・指導計画の立案方法を習得する。	3	30	1			○
○			保育原理	・保育の意義、保育の歴史など保育にかかわる基本的な事項を学ぶ。・保育環境、保育方法などの保育の展開について学ぶ。	1	30	2	○		
○			社会的養護	・社会的養護の理念と今日的課題について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系について理解する。 ・施設養護と家庭的養護の実際について理解する。	2	30	2	○		
○			家庭支援論	1. 子育て家庭を取り巻く社会状況等の変化 2. 家庭の意義と機能 3. 子育て家庭の支援体制 4. 家庭支援の展開と関係機関	2	30	2	○		
		○	保育産業論	社会の動きを見据えながら、子どもを中心とする家庭に関わる産業について理解を深めていく。また消費社会に生きる私たちに必要な情報の的確な捉え方も学んでいく。	3	30	1	○		
		○	紙芝居	・いろいろな紙芝居を観て、楽しみ学ぶ。 ・紙芝居の演じ方を学び、実演を体験する。 ・紙芝居の歴史と、世界へのひろがり学ぶ。	3	30	1		○	
○			体育および保健 体育	・現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方を学ぶ。 ・健康的な生活習慣を身につけ、健康に好ましい環境をつくるための知識と能力を高める。・生涯スポーツに向けて運動を高めたり、それを実践することの大切さを学ぶ。	1	30	2	○		
		○	保育に生かすやさしい手芸	軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をします。玉留め・並縫いなど、手縫いの初歩の段階から説明しますので、針を持つのが不慣れな人も楽しみながら作ることができます。	1	30	1		○	
		○	創作うたあそび	遊んで作ると面白い。まじめに作るのも面白い。いいかげんでも面白い。心の奥にかくれている「遊び心」を解き放ち、自分の世界を広げると、発見がある。	3	30	1		○	
		○	子どもと物語	子どもにとって物語は、はじめて出会う「絵本」からはじまり、幼年童話へ発展します。子どもの想像世界を豊かにする物語を、児童文学史に沿って論じます。学生は、作品を選び、その特色や背景などを考察してまとめて、発表し話し合います。	3	30	1		○	
		○	レクリエーション	レクリエーション支援の方法・展開・目的を学び、レクリエーションに触れて、指導者としての心構えを確立して行きます。	3	30	1		○	
○			音楽リズム	ダンス、歌あそび、運動あそび等、様々なあそびを実習し、受講者自身が楽しみながらスキルアップしていく。	2	30	1		○	

		○	身体表現	保育者になる人にとっての必要な身体表現能力について、理解を深める。自分の体について理解を深め、緊張をほどいていく。さまざまなエクササイズを行いながら、身体表現能力を養う。	3	30	1		○	
○			声楽Ⅰ	・数々の子どもの歌を通して、歌う事の楽しさを自ら体験出来るよう練習します。 ・グループでの歌唱から次第に一人での歌唱が出来るよう練習してゆきます。 ・正しい呼吸法、発声法を身につけてゆきます。	1	30	1		○	
○			声楽Ⅱ	・前期で学んだ各項目をさらにレベルアップさせてゆきます。 ・グループ唱から主に一人で歌えることを目指して練習します。 ・音程、リズムをとる練習をさらに進めます。	1	30	1		○	
○			声楽Ⅲ	童謡を子どもたちと楽しく歌うことは、連帯感や集中力を高め、生活指導の推進力になります。1年次に修得した基礎技能を各人がさらに発達させ、表現豊かな歌唱法を身につけ、保育の現場での指導力を養いましょう。	2	30	1		○	
○			声楽Ⅳ	前期での経験を踏まえて現場で歌われている様々なスタイルの曲を演習し、手あそび、アカペラ、弾き歌い等、曲や状況に合わせた指導法を身につけましょう。	2	30	1		○	
		○	声楽Ⅴ	自信を持って現場で音程指導できるよう、個人の力の発展と充実に焦点をあて、より専門的な技術を修得しましょう。また子どもたちへの歌唱指導に必要な技術や表現方法を身につけましょう。	3	30	1		○	
		○	声楽Ⅵ	弾き歌いの実践と歌唱の充実を目標に1年次から積み重ねた童謡のレパートリーを中心に、言葉・音程・リズムをより確実なものにし、現場での指導及び採用試験に対応できる力を養いましょう。	3	30	1		○	
		○	フィールドワーク	様々な「現場」に実際出かけ、問題意識や目的をしっかりとって参加する。	2	30	2		○	
○			造形演習Ⅰ	学生がそれぞれ所持するであろう創造性の「カケラ」について言及し、自らの方法でそれを形にする「ちから」を実習を通して身につけていく。	2	30	1		○	
		○	造形演習Ⅱ	創造力を働かせる楽しさを感じ、完成させる達成感を味わう。 一般的美術表現についても学び、対象とする表現の枠を広げて創造力を養う。	2	30	1		○	
○			ピアノⅠ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ。 ・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。	1	30	1		○	
○			ピアノⅡ	・童謡のレパートリーを増やすこと。 ・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。	1	30	1		○	
○			ピアノⅢ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ(ピアノⅢ…バイエル72番程度)	2	30	1		○	
○			ピアノⅣ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ(ピアノⅣ…バイエル80番程度)。	2	30	1		○	



		○	ピアノV	・ピアノの演奏技術の向上(バイエル終了～他の楽曲へ)。 ・子どものうたを弾きながら生き生きとうたえるようになること。	3	30	1			○
		○	ピアノVI	・実習に向けての準備と童謡のレパートリーの拡大。 ・保育現場で子どもたちに音楽表現の喜びを伝えられるようになること。	3	30	1			○
		○	幼児体育	・幼児教育における「幼児体育」のねらいを把握する。・幼児主体の運動遊びを保育の中でどう展開していくか、その指導法を学習する。	3	30	1			○
	○		指導案演習	・幼稚園教育実習に向け、指導計画作成についての知識を習得する。 ・指導計画の事例を検討し、作成の実際について学ぶ。 ・資料の収集方法、活用方法を学習する。	3	30	1			○
	○		教育実習研究	・幼稚園教育実習に対する事前学習として、実習目標を明確にする。 ・実習生としての自覚・心構えを修得する。 ・幼稚園の実際の理解を進め、記録方法を学ぶ。	3	30	1			○
		○	音楽表現	手遊び歌を通して、音楽に合わせて体を動かす楽しさを伝えると同時に、子ども達のリズムの揃え方を学ぶ。	2	30	1			○
○			保育実習	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、保育の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	3	180	4			○
○			施設実習	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	2	90	2			○
	○		教育実習	実習は、本校において履修した教科全体の知識・技能を現場において総合的に実践し、応用力を養うことを目的とする。また、体験を通して幼稚園教諭としての自覚を高め、各自の今後の学習課題を探究する契機とする。	3	180	4			○
○			クラスルーム	クラス活動を通じて、保育者に必要とされるコミュニケーション力、自主性、協調性、責任感、協働の素質を養い、高める。	全	180	6			○
○			併修学習	保育士資格・幼稚園教諭免許状取得に向けて、併修学習を促進する	全	180	6			○
合計					77	科目	3000	単位時間(122単位)		